



## 卒業を祝して

歯学部長 前田 健康

歯学科第45期生の皆さん、口腔生命福祉学科第8期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。新潟大学歯学部でかけがえのない学生生活を過ごし、本日めでたくご卒業される皆さんに、歯学部教職員を代表して、心からお祝い申し上げます。また、今日の日を一日千秋の思いで待ち焦がれていた保護者、ご家族の皆様のご尽力にも敬意を表するとともに、お喜び申し上げます。

卒業生の皆さんは、新潟大学歯学部の教育課程をすべて修了し、本日、学士の称号を与えられ、この春から、歯科臨床研修医、歯科衛生士、行政職、大学院への進学等、さまざまな道に進まれます。各人の進む道は異なるものの、歯科医学・医療、口腔保健・福祉に携わり、国民の健康の維持・増進に寄与するという皆さんの目標は同一であると思います。

我が国は世界でも例を見ない超高齢社会となり、また少子化の進行に伴い人口減少が加速している中、健康立国・健康長寿社会を実現することが国家政策の大きな課題となっています。とりわけ、歯学を取り巻く社会的要請として健康長寿社会実現への貢献、医療イノベーションの創出、国際的な医療課題の解決があげられており、国立大学法人歯学部には、超高齢・グローバル化に対応した人材育成が求められています。歯科治療の需要も健常者型から高齢者型に変化する中、健康長寿社会を実現するためには、生涯を通した正常な口腔機能の維持、口腔疾患と全身疾患の関わりに関する高度化、超高齢社会に対応した歯科医療等への対応が必要とされ、歯学科卒業生の皆さんには歯科医療ニーズが変化する中で、口腔疾患と全身疾患の関連する領域を担うことができる専門医療職業人としての知識、技能が求められ、口腔生命福祉学科卒業生の皆さんには専門性に裏付けら

れたチーム医療推進のための実践能力及び地域医療連携業務に精通し、実践できる能力が求められています。

私ども新潟大学歯学部の教職員は教育目標である「口腔や食べることの視点から、包括的な歯科医療人を養成し、社会に貢献できる人材の提供」を目指し、皆さんにこれからの超高齢社会の中で活躍できる基盤的知識、技能、態度を教育してきたと自負しています。

皆さんは今日「口腔の健康を守るプロ」の一員となりました。社会は口腔保健・医療・福祉のプロフェッショナルとなる皆さんに対して幅広い教養、豊かな感性、厳しい倫理感を求めています。また、社会は皆さんに専門的知識やスキルを維持・向上させる責任を求めます。このため、皆さんにはさらに一層の常日頃の精進が不可欠となります。皆さんが社会から認められるために、今日の卒業式の日、これからの長い人生に向けて新たな目標を設定しましょう。歯科医療・口腔保健従事者という職業を真摯に受けとめながら、プロとしての自信と勇気を持って、社会に対して積極的に貢献することを目指してください。

本日、新しい夢を胸にスタートラインに立つ皆さんを、我々教職員一同はこれからも応援していきます。卒業する皆さんには、折を見て母校を訪ね、また生涯の学習の場として、これからも新潟大学歯学部を積極的に活用していただけるように願っています。皆さんが今日巣立っていく新潟大学歯学部は競争が激化している歯科界の中で、高い評価を受けています。我々教職員は皆さんに対し、これからの社会で勝ち抜くために必要な考え方、知識、技能を授けてきたと自負しています。新潟大学歯学部を卒業したという誇りを持ち、今後の活躍を大いに期待してします。



## 卒業生の皆さんへ

新潟大学医歯学総合病院 総括副院長 高木 律 男

歯学科第45期生ならびに口腔生命福祉学科第8期生の皆さん、この度のご卒業誠におめでとうございます。皆さんは今、新たな人生の舞台への立ちあたり、将来への夢や希望と緊張感に包まれておられることと思います。無事この日を迎えられることとお慶び申し上げますとともに、新潟大学歯学部で培った知識や技術を礎として、新しい環境の中で夢と目標に向かって、積極的に邁進されますことを期待いたしております。

皆さんには歯科医学や歯科医療、さらには社会福祉、口腔保健のプロフェッショナルとして、国民のQOLの維持・向上に貢献するという共通の目標があります。その実現のために皆さんが学ぶべきことは、日進月歩の歯科医学や歯科医療の中で、まさに無限といっても過言ではありません。新潟大学歯学部の教育カリキュラムは、臨床実習やPBLなど、自ら情報を収集し整理して習得する力を養うことを重視したものでありますので、皆さんには長い生涯学習の道程を乗り越えていくために必要な基礎的能力がすでに備わっているはずです。今の熱い気持ち＝“初心”を忘れることなく、卒直後から数年の豊富な吸収力を活かして、高度職業人として羽ばたくための基礎となる多くの力を速やかに蓄えて頂けることと思います。

一方、歯科医療を取り巻く環境は、決して順風満帆とは言えません。向かい風に抗する局面に耐える力が必要な時代ととらえることも必要でしょう。しかし、少し視点を変えることで、歯科医療

の可能性はまだまだ広がっていることも事実です。例えば近年では多職種連携が医療界のキーワードの一つとなっており、周術期口腔管理や摂食嚥下リハビリテーションなど、他職種との連携のもと“チーム医療”の一員として歯科の特殊性を発揮する場が広がりを見せています。また、歯科疾患と全身との関連が注目されていることも周知の通りです。さらには、高齢社会での「健康長寿」における歯を残すこと、咀嚼して食べることの意義もいたるところで耳にする様になっています。

この様に歯科医療は歯科界のみで完結するものではなく、医療全体の中の一分野としてその役割を果たすこととなります。それぞれの皆さんが経験する医療現場は、多種多様に分かれることになるとは思いますが、そこに共通するものは、患者さん中心の医療であり、それを提供するための基本は感染管理・医療倫理を含めた安心安全な医療です。まずは、この基盤をしっかりとした上で、基本的な歯科の知識および診療技術があり、そしてさらなるプロフェッショナルとしての専門性があります。この数年間が一生涯を通して各自がどこまで高められるかの基盤を固める上で非常に大切なことを忘れないでください。

最後になりますが、ご家族の皆様におかれましてはご子息、ご令嬢のご卒業、誠におめでとうございます。長年のご支援に厚く御礼申し上げますとともに、益々のご健康とご多幸を祈念しております。

## 卒業にあたり

歯学科6年 内川 恵里

この原稿を書くにあたり、歯学部の6年間を思い出してみたのですが、6年が一瞬で過ぎ去ったように感じます。

4年生まで生活の大部分を部活に費やしていました。今考えればもっとしっかり授業を聞いていれば…と思う事が沢山あります。

そのせいか、歯学部での生活の記憶が薄いというのがありますが、その事を抜きにしても臨床実習は濃密で今までに感じたことのないプレッシャーがかかる1年間でした。

頼っていた先輩からの引き継ぎが終わり、初めて診療を1人でする日に、手汗でグローブがはめられない程緊張したことを、未だに覚えています。

診療で新しいことをする度に、基礎実習の時に先生方が毎回のように「患者さんがいるつもりでやりなさい。」とおっしゃっていた意味が、ようやく理解できました。今まで、模型で実習してきたことを実際に行うことがこんなに難しいことなのかと感じる毎日であり、自分の無知さに愕然とする毎日でした。

また、50年に一度の引越で歯学部から外来まで外を歩くという、冬の新潟を感じることができました。転んで模型を壊さないように凍った道を避けて歩いたり、風で模型やレポートが吹き飛ばされないように踏ん張ったり、今となってはいい思い出です。



そんな日々の中で、支えになったのはやはりクラスの皆だったと思います。技工室はいつも明るくて、疲れて帰った時にほっと一息つける場所でした。共に励ましあって支え合うことが出来たからこそ、45期の全員で臨床実習を乗り越えられたと思います。

最後に、どれだけ時間がかかっても文句ひとつ言わずに、それどころか「ありがとう。」と仰ってくださった患者様、忙しい中時間を割いて様々なことを教えてくださった先生方、45期の皆、そして手のかかる45期を叱咤激励し、引っ張ってくださったヘッドインストラクターの芳澤先生に深く御礼を申し上げます。これから卒業して社会の一員になった時に、この経験を土台として着実にステップアップをしていくことが、努めだと思っています。

ありがとうございました。

## 卒業にあたり

歯学科6年 下村 純平

新潟大学に入学して早くも6年が過ぎようとしています。僕は出身が京都府であり、新潟大学に入学するまで新潟は全く縁のない土地でした。入学当初、新潟では環境の違いにとまどいました。街の雰囲気や言葉の違い、食べ物の違い、気候の違い（これだけは苦手です）…のこと以外にも関西では体験できなかった様々なことを体験できたと思います。大学生活の中で特に印象に残ったことを書いていきたいと思っています。

1番印象に残ったのは5年生後期からの臨床実習です。自分が主体となって患者様を診療させていただくことで座学では学ぶことのできなかった、臨床の知識を学ぶことができました。実習中は先生方ならすぐに終わらせてしまうような処置でも必要以上に時間をかけてしまうことや、自分の思い通りに診療が進まないことが多々ありました。至らない点が多い中、丁寧に指導してくださったライターの先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。自分がこの1年間で経験して得た知識や技術が無駄にせず、今後の診療に生かしてい



たいと思いました。

また6年間で学校以外のことで一番打ち込んだのがテニス部での活動でした。僕は大学から初めてテニスを始めたのですが、部活を続けていくうえで先輩方のテニスに対する姿勢や試合で活躍する姿に刺激を受け、自分ももっと上手になりたいと思うようになり、ひたすら部活に行き続けました。6年のデンタルで引退するまで、ほとんど部活を休まなかったのはちょっとした自慢です。毎年レギュラーの人数がギリギリの中、勝つことを考え練習に臨み、デンタルで勝利を勝ち取ったときは本当に最高でした。真面目で部内の雰囲気も良い、いい部活です。

さりげなくテニス部の宣伝をさせていただいたところで、原稿を終えたいと思います。

最後になりましたが、新潟大学でお世話になった先生方、友達、大学生活を支えてくれた両親に心から感謝申し上げます。

## 卒業にあたり

歯学科6年 宮 福子

長い長いと思っていた6年間も終わり卒業を迎えることができ、ほっとしたような寂しいような気持ちです。今回原稿依頼を頂き何を書こうか悩みましたが特に思い出深い二つに絞って書きたいと思います。

一つ目は私が所属した硬式テニス部についてです。毎年懲りずに真っ黒に焼け、テスト前でも休まず気合いと根性で乗り越え…。ある意味とても

大学生らしい思い出を沢山作ることができました。大学から始めたテニスでしたが熱中することができ私の大学生活を充実したものにしてくれました。そしてなにより先輩後輩、OBの先生方との繋がりが出来たことが大きな財産となりました。卒業後も続いていくこの繋がりをこれからも大事にしていきたいと思っています。

二つ目は5・6年次に行う臨床実習です。歯学部の講義・実習の集大成となる臨床実習で学生は初めて患者さんを診ることになります。「患者さん」を診ることの責任から、それまでの甘かった意識も変わりました。今まで座学で培った知識、模型実習で身に付けた手技を総動員して挑みましたがそれでも上手くいかない事だらけで患者さんにも沢山の迷惑をおかけしましたし、先生方には相当怒られました。申し訳ない気持ちで一杯で情けなく自信を無くしましたが、患者さんは優しく実習に協力してくださりましたし、先生方も最後まで見捨てず向き合い見守ってくださいました。周りの方の支えで最後までやり遂げる事ができ手技だけでなく人間力が鍛えられたと思います。ご協力頂いた患者さん方の優しさは一生忘れません。患者さん方に恥ずかしくないような歯科医師になるよう今後も頑張りたいと思います。

振り返ると無事卒業を迎えることができたのは周りの多くの方の支えがあったことを痛感します。今までお世話になった先生方、先輩後輩、両親、そして同期のみんなに感謝します。本当にありがとうございました。



## 卒業にあたり

歯学科6年 高岡 由梨那

「10年後の自分が何をしているか想像できますか」「全く何も想像できません」

推薦入試の面接でそう答えてから6年、気が付けば24歳となり、いつのまにか「大人」の分類に足を踏み入れていました。あと4年で当時から10年となりますが、歯科関係では今も想像できないでいます。まだ自分が進みたい道を整理できず、何を学びたいのか、学んで何をしたいのかを具体的にすることができていません。これから先も学ぶことからは逃げられないので、いつか自分が進む道を決められると信じて、未来の自分に期待したいと思います。

難しい話はこれくらいにして、大学での生活をまとめます。皆、口をそろえて言うと思うのですが、「45期生は出来が悪い上に、やる気がない」と6年間ずっと言われ続けたことは、とてもいい思い出です。当初は傷つきましたが、学年が上がっていくにつれて、とても前向きな私たちは、開き直っていました。私たちがなりに一所懸命に課題に取り組み、努力をしていたつもりでしたが、受け入れてもらえなかったようです。ですが、ちらほらと私たちを認めてくださる先生が現れ、「想像していたより悪い子たちじゃない」と仰っていただけたときは、とても嬉しかったです。他の学年より厳しく扱われたことで、精神的強さが鍛えられたのではないかと感じます。これから先、こわい社会で生き抜いていくために、とても



役立ちそうなスキルを身に付けることができました。

私にはちょっとした夢があります。「有給休暇を二つ返事でもらう」というものなのですが、働いている人たちから話を聞く限り、とても難しそうです。家族のイベントや子どもの行事には、私の両親がそうであったように「皆勤賞」でありたいです。仕事も大事ですが、家族のほうの方が大切なので、頑張りすぎない・ゆとりある人生を送りたいです。10年後は、必要な有給休暇をもらうときに、嫌な顔をされずにもらえるよう「立派な大人」になっていきたいです。

## 卒業にあたって

歯学科6年 笠原 典夫

歯学部編入して早いもので4年が経とうとしている。

同期に編入したのは私を含め4人で、それぞれに複雑な背景があった。家庭を郷里に残してきたもの、東日本大震災に被災したものの、某大企業の内定を辞退して編入したものなど、それぞれにとって厳しい環境にあったためか、または偶然にも気が合ったためかは分からないが、何をすることも4人で協力し、乗り越えてきた。

今我々が共通して抱えている感情を言い表すに相応しい詞を探すとすると「感謝」であろう。通常であれば6年の修業年限が必要な歯学教育を4年に短縮してもらい、今こうして最終学年として国家試験の勉強をさせてもらっている。また、力



リキュラムにも工夫がなされ、編入後も無理なく専門教育が受けられるように組まれていた。先生によっては編入生のために特別に授業を設けてくださったこともあった。正規組（一年生から入学した同級生）も試験日程やクラスの仕事を配慮してくれる一方で、歳の差と反比例するかのような親しみを持って接してくれた。実習では先生方との距離も近いせいか、または形態学的に特徴

があるためか、とにかく我々4人は気にかけていただくことが多かった。中には私より年下だと分かった瞬間から学生の私に対し敬語を使ってください先生までいらした。以前、私が所属していた某医療系大学ではあり得ないことである。それはさておき、実習の内容も綿密に組まれており、基礎実習から臨床実習への移行がスムーズに行え、卒前臨床実習では年齢不相応なほど丁寧に指導していただいた。

我々4人が今こうしていられるのは前記のような奇跡の連続の上に成り立っていることに気付かされ、この4年を回顧するにあたり、感謝の念を禁じ得ない。

国公立大学歯学部編入学試験は今や三校しか実施されていない。そのように稀な制度を今現在も実施してくれている新潟大学歯学部。カリキュラムの素晴らしさに比例しない学力の我々を温かく指導して下さった人間味溢れる個性豊かな先生方。異次元から来た我々を何気なく受け入れてくれた同級生たち。皆々様に心よりの感謝と御礼を申し上げ、稿を終えたいと思う。

